

学校説明会

日程・実施形態等を変更させていただく場合があります。
ご来校前に本校ウェブサイトをご確認ください。

7月26日(水) 一時帰国の方対象 説明会

9月30日(土) 第1回 学校説明会(3部制)
中学3年生対象

10月7日(土) 第2回 学校説明会(3部制)
第1部、第2部は中学3年生対象

注意

※ インターネット予約が必要です。

※ 学校説明会の詳細については、決まり次第、本校ウェブサイトでお知らせします。

文化祭

9月16日(土)
10:00~17:00

9月18日(月・祝)
8:45~12:15

※ 両日ともに予約は不要です。

※ 入試相談会はありません。



青山学院高等部
Aoyama Gakuin Senior High School

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25

TEL 03-3409-3880(高等部直通)

FAX 03-3409-5784(高等部)

<https://www.agh.aoyama.ed.jp/>



青山学院高等部

SCHOOL GUIDEBOOK 2024

The Salt of the Earth, The Light of the World

青山学院スクールモットー 「地の塩、世の光」

マタイによる福音書 第5章 13～16節より



青山学院教育方針

Educational Policy

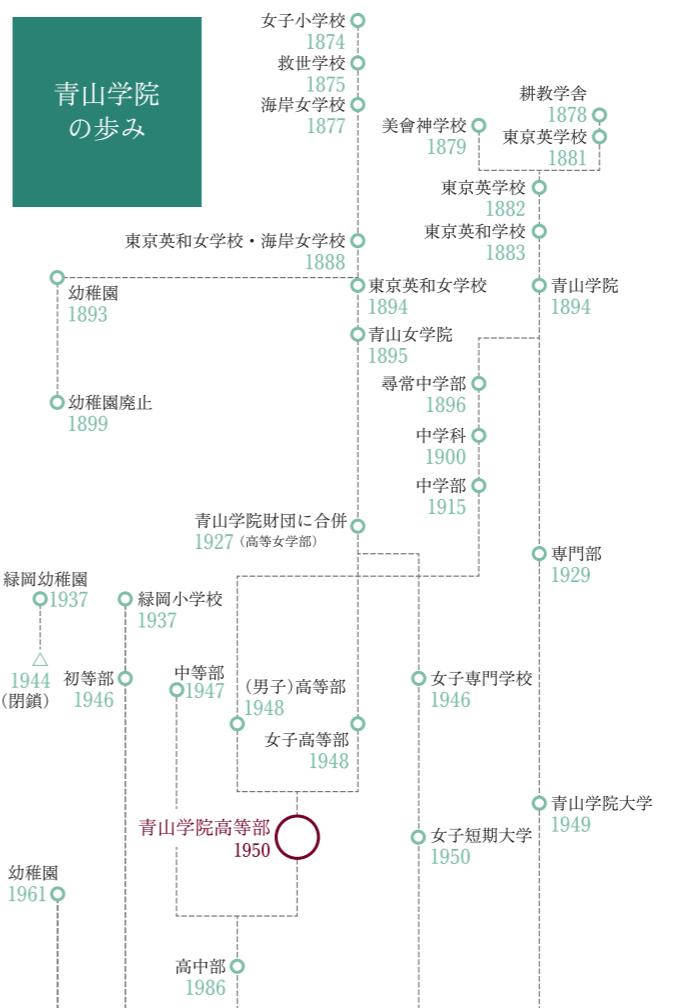
青山学院の教育は
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、
神の前に真実に生き
真理を謙虚に追求し
愛と奉仕の精神をもって
すべての人と社会とに対する責任を
進んで果たす人間の形成を目的とする。

高等部の教育目標

Object of Education

- 礼拝と聖書の学びを通して、真実を求める心を培い、
神や人生について深く考え、
人を愛し人に奉仕する人間の育成に努める。
- 教科の学習を通して、総合的判断力・洞察力を持ち、
自分の人生の進路を切り拓く力をもつ人間の育成に努める。
- 学校の諸活動を通して、集団の中で自分の果たすべき役割を知り、
それを実行できる人間の育成に努める。
- 国際的な視野に立って
将来の社会に責任を負うことのできる人間の育成に努める。

青山学院 の歩み



高等部部長メッセージ

Message

Rejoice Always いつも喜んでいなさい。

“Rejoice Always”(いつも喜んでいなさい)は新約聖書の言葉ですが、みなさんはいつも喜びの中にいるでしょうか。青山学院高等部は、いつも喜びに溢れる学校を目指しています。

青山学院のスクールモットーは“地の塩、世の光”です。これは、私たち一人ひとりが地の塩であり世の光である、というイエス・キリストの教えによるものです。「塩」は味付けに欠かせないものであると同時に防腐剤としての役割をもちます。また「光」は、闇の中で道を照らすものです。この言葉は、世の中によい味をつけ、荒廃を防ぎ、たとえ世界が闇に包まれていても希望の光を与えていく、という人物像を示しています。このスクールモットーには、私たち一人ひとりが神に愛され賜物を与えられているということを知り、その賜物を活かして人々や社会に貢献できる人間になってほしいという願いが込められています。

私たちが生きていくこれらの時代は、先行きが不透明な時代であると言われています。経済・教育・環境問題など様々な分野が過渡期にあり、分断や格差が助長されかねない状況にもあります。テクノロジーの発展によりコミュニケーションの方法や仕事の形態も大きく変化し、人間の役割も変化しつつあるようです。しかしながら、私たちはより良い社会を築くという普遍的な課題に取り組む使命があります。青山学院高等部は生徒一人ひとりが深い学びと豊かな経験を積み、世界に貢献する人になっていく礎でありたいという願いを持っています。深い学びとは、知識や技能を身につけながら「なぜそうなるのか」「何が大切なのか」「どうすればよいのか」を考え、真実や真理を追究し、自分の意志や主張を構築し、表現できるようになります。一人ひとりが主体的に学ぶ探究者となることを互いに期待し合える環境がここにあります。また高等部には、キリスト教活動・国際交流プログラム・平和共生プログラム・高大連携プログラムなどの様々な活動が用意されています。これらのプログラムに積極的に参加して、グローバルな視野と愛と奉仕の精神をもって他者と共に生きるための素養を身につけることを多くの生徒に期待しています。

このような学びや活動を通して成功や充実感を経験すると、大きな喜びが生まれます。しかし一方で、時には失敗したり思い通りにいかないことがあったり、困難な試練が与えられたりすることもあります。そのような逆境の中にも喜べることや感謝できることがあり、むしろそれらの経験を通じて人として最も深い喜びの一つである他者との絆が深まり、他者に貢献する喜びを体験できたりすることもあります。皆さんが、他の役に立つことや社会に貢献できることの喜びを実感しながら、人の関わりにおいて本当に大切なことは何なのか、世界における自分の役割は何であるのかを学んでくれることを願っています。

高等部での学びが皆さん一人ひとりを成長させ、それぞれの賜物がこのグローバル社会で豊かに活かされ、皆さん的生活が喜びで満ち溢れることをお祈りしています。



青山学院高等部 部長
渡辺 健



聖書に触れたことで、多くの気づきと出会いがありました

71期生（2022年度卒業生）H.K.

マタイによる福音書 7章12節「だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。」は、人と関わる中で大切な「思いやり」に気づかせてくれる箇所の一つだと思います。

グリーンキャンプでのディベートを通して、聖書の教えは現代社会にも通じることが多くあると実感しました。またレクリエーションを通して、今まで関わったことのなかた生徒や先生と仲を深めることができ、ここで出会えた友達は今ではかけがえのない存在となっています。さらに、世界ではキリスト教を信仰している人がとても多く、国家や文化とも深く結びつくる宗教というものの理解は必要不可欠です。国際理解がより求められている今、宗教的対立が続いている地域があることなどから見ても、聖書を学ぶことはとても大切だと考えます。

コロナ禍で海外への行き来がしにくいような状況であっても、SNSを通じて国内外の人と繋がることができます。気軽にやり取りができるできてしまうことによる弊害もあり、顔が見えないことをいいことに冷たい言葉を放ってしまったり、無意識でも相手を傷つけてしまうことがあります。コミュニケーションをとる中で互いをよく理解すること、相手の顔が見えなくても思いやりの心を持つことはなくてはならないことです。混沌とした世の中で、私たちは立ち止まって考えることや思いやりの心を忘れてしまいがちですが、どんなときでも無条件に道徳的に守るべき大切なことについて聖書や礼拝を通して触れることができます。高等部でのキリスト教との関わり、クラスメイト、先生との関わりは、何にも代えがたい有意義なものであると感じています。

「礼拝」も「聖書」も高校に入って初めて触れた大切な時間です。

[キリスト教教育] — i n g [page 05-06]

BLUE PECOと私 対話を重ねて世界を知る

70期生（2021年度卒業生）T.C.

私は生徒自主学習団体「BLUE PECO」の代表として、Global issuesや東ティモールが抱える社会問題と向き合ってきました。東ティモールでは特産品であるコーヒーが安く取られ、貧困や格差が改善されていません。そこで私たちは、文化祭での「フェアトレードコーヒー販売」や「東ティモールとのオンラインイベント」を通じて問題意識を共有するとともに、コーヒーを対等な立場で購入することで、消費者だけでなく共同生産者として東ティモールの人々を応援しています。また高等部には、Global weekという世界の諸問題や共生について考える週が年に2回設けられています。この期間を活用して、SDGsに対する私の考え方や思いを発信しました。一人一人の意思決定が大きなムーブメントとなり、人や自然が共生できる希望ある未来に繋がる、すなわち、SDGsは未来への道を示すコンパスであると考えています。

東ティモールで活動するNPOの方、修学旅行で講演してくださった被爆者の方、宮古訪問プログラムで出会った東日本大震災の被災者の方々。私は多くの方と出会い、経験や体験を伺い、対話を重ねてきました。これらの出会いと対話により、「共に生きることは、互いの価値観や背景を知り、受け入れることから始まる」のだと知りました。また、対話を通じて問題に対する当事者意識を持つよう努めてきました。大学ではグローバルガバナンスや環境政策を学び、将来は人や自然環境に寄り添った国際協力を実行していく人になりたいと思っています。



[平和・共生] — i n g [page 09-10]

STORYing >

3年後のその先へつながるものがある

青山学院高等部には授業の枠を超えた多彩な活動があります。

クラブ活動、生徒会、国際交流、そして社会との関わり――。

生徒の数だけある活動の軌跡は、一人ひとりの人生の糧となり、多様な将来につながっています。



日英の教育の違いを感じた リーズスクールとの交換留学

70期生（2021年度卒業生）K.S.

英語が得意ではない僕が短期交換留学プログラムに参加したのは、日本語が通じない環境の中で自分は何が学べるかを試してみよう、と思ったからです。

交換留学先のイギリスのリーズスクールでは、国語や数学などの科目のほかに、英国伝統の「演劇」や、日本ではあり得ない「軍事教練」の授業がありました。「林の中で敵と遭遇したらどうするか?」という実地訓練で真剣な表情になったクラスメイトの顔を鮮明に覚えています。

また、ICTを用いた授業も新鮮でした。交換留学はコロナ禍の前で、そのとき日本ではICTはほとんど用いられていましたが、日本で受けている授業との違いに驚きました。新型コロナウイルスの影響によりオンライン教育でスタートした2年生、一概にどちらが良いとは言えませんが、日本のICT教育はやっと諸外国に追いついたのだと思いました。

イギリスの教育環境や文化を体験できたことは、自分の将来について考えるきっかけになりました。何も将来の進路を考えていなかった中で、外国と関わるというひとつの可能性を見つけられ、自分の進路の選択肢をひとつ増やすことができたと思います。

まだ進路は決めていませんが、短期間でも海外に行けたという経験は、自分の人生において大きな価値を持つものであったと思います。

「ホストファミリー」とは
今でもよく連絡を取っています。

[国際交流] — i n g [page 07-08]

大学でのリアルな学びは、 将来のための糧となりました

71期生（2022年度卒業生）Y.Y.

3年生のときに大学の講義を履修できる制度を利用しました。友人から「大変だね」と声をかけられることもありましたが、大学の教室で「本物の」講義を受けられる経験は大変ということではなく、高等部で学んだ内容を高等部で活かせたり、非常に充実した有意義な時間であり、開講される日を楽しみしていました。

最初は、高校の授業よりも長い90分の講義を聞いていられるか、講義についていかれるのか心配でしたが、すぐにその不安は解消されました。自らが強く興味・関心を抱いた「好きなコト」について、大学生に囲まれながら、ただ純粋に学ぶということは新鮮で胸が高鳴りました。講義中は、少しでも多くの知識を得て帰ろうと思い、周囲の誰よりもメモを取るように心がけました。また、学期末にレポートが課される講義や、試験が実施される講義もありましたが、どちらも自ずと熱心に取り組むことができました。

講義を履修して良かった感じることが2つあります。1つ目は、一足先に大学の雰囲気や講義の様子を把握でき、大学について漠然と抱いていた不安や疑問がはっきりしたことです。同じキャンパス内にあってどこか遠く感じていた大学について実感がわき、大学生になる構えができたと思っています。2つ目は、大学に入ってからの負担を少しでも減らせたことです。僕は、中学生の頃から教員になることを強く志していました。教職課程では多くの講義を履修する必要があるので、高校生のうちに単位を取れるならば、いくつか取りたいと考えていました。これは、付属校ならではの大きな魅力であり、非常にありがとうございます。大学でも志高く、夢に向かって一生懸命努力します。



[高大連携] — i n g [page 11-12]



Christianity-based
Education

キリスト教教育



WEB「キリスト教教育」ページ

真実を求める心を培い、
神や人生について深く考える力を育てる。

キリスト教教育は、米国メソジスト教会の宣教師によって建てられた青山学院の教育の根幹をなすものです。生徒たちがキリストの愛に触れ、自己の生き方を見つめ、隣人を愛し社会に貢献できる人として巣立ってくれることを願っています。

個を尊重しながら、共に生きるには

宗教主任 北川理恵



私たちは神に命を与えられ、互いに助け合う存在だと聖書は告げています。その一方で、自己中心に陥り、周りに責任転嫁をしながら生きてしまう人間の愚かさをも聖書は描いています。そのような私たちがいかにして自分自身を知り、互いを愛し、共に生きていくのか。学校生活や社会にも溢れているこの問いに、神の恵みの中で向き合おうとする聖書の御言葉と礼拝が、一人一人の指針や支えになることを願っています。

神の愛を感じる毎日の礼拝

全校生徒と教職員がともに講堂に集い、聖書の御言葉(みことば)を通して自らを振り返る毎日の礼拝は、この学校が最も大切にしている時間です。週一回、各クラスで行われるホームルーム礼拝では、生徒が司会、奨励(話)、奏楽等を担当し、クラスメイトの言葉に耳を傾けます。

週に一回の「聖書」の授業

青山学院の教育の土台は聖書の御言葉です。そして、この御言葉を学ぶ時間が「聖書」の授業です。授業では、聖書を手に取り、自分自身について、また隣人について考え、神と私たちとの生きた関係について学びます。また、さまざまな切り口から聖書を紐解くと、自分自身の生き方を考えるだけでなく、キリスト教を信仰する世界の人々の価値観を理解することができます。

キリスト教に触れる様々な行事

夏休みのグリーンキャンプ、冬休みのホワイトキャンプは、大自然の中で仲間との親睦を深め、聖書を学び、神様や人生について考える機会です。また、クリスマスやイースター、特別礼拝などを通して、キリスト教の伝える真理に深く触れてていきます。



ホワイトキャンプの様子



キリスト教教育活動に関わるクラブ

オルガン部、聖歌隊、ハンドベル部は礼拝での奉仕をする特設クラブです。聖歌隊は外部の合唱コンクールでも活躍し、オルガン部から音楽大学に進学する生徒もいます。ABF(聖書交友会)は聖書が語りかけるメッセージに耳を傾けるクラブ活動です。



国際交流



WEB「国際交流」ページ

国や文化の違いを超えて、他者を理解し支援することのできるサーバントリーダーを育てる。

本校の国際交流が目指すものは、「価値観の多様性(diversity)の共有」です。これは、世界中の人々が「愛と平和」のうちに互いを認め合い、共に生きるというイエス・キリストの教えに根差したものです。本校はその思想を実践し、グローバル化の時代に対応できる人間の育成に励んでいます。

多様性の受容は青山学院の伝統です。

「ダイバーシティ」という言葉が一般的になる前から、青山学院には多様性を受容する空気が流れていました。さまざまなバックグラウンドを持った生徒が同じホームルームで学び、お互いを認め合っています。本校の国際交流プログラムは、隣人の価値観を認めながら、進んで人と社会に仕え、その生き方が世の光となる人、「サーバントリーダー」を育てることを目指しています。

短期交換留学プログラム（学校間交流）

英国ケンブリッジの名門パブリックスクールであるリーズスクール、ルネサンスの文化を色濃く残すイタリア・ミラノ郊外にあるクレスピ校との間で姉妹校提携を結んでおり、それぞれ数名の生徒による約2週間の短期交換留学を実施しています。ホームステイや現地校の寮で生活をしながら、授業や課外活動などのアクティビティに参加しています。

カナダ・ホームステイ

夏休みに2週間、約30名でトロント市近郊のベリー市を訪問します。地域の施設(老人ホーム・YMCA等)の訪問、チャリティー活動、ナイアガラの滝見学、大リーグ観戦、カヌー体験など様々なイベントが用意され、異文化や大自然を体験できるだけでなく、英語力を試す格好の機会となっています。

長期海外留学

学外の各種留学斡旋機関の派遣などによって1年間の長期海外留学をする場合に、休学またはそれに準ずる手続きを経て高等部に復帰することができます。帰国後に同じ学年に戻る第一種留学と、年下の学年に戻る第二種留学の二種類の制度があります。年間で平均して10~15名程度の生徒がこの制度を利用しています。

帰国生教育

本校は1970年代から、毎年一定数の帰国生を受け入れてきました。帰国生は普通のクラスに入り、異文化の体験者として周囲に影響を与えてくれます。一方、帰国生が円滑に学校生活に順応できるよう、国際交流員の教員が「アドバイザー」となって、学校生活や学習の問題の相談に個別に応じる体制を整えています。



長期留学生受け入れ

毎年数名、海外からの長期留学生を引き受けています。英語圏出身だけではなく、さまざまな国や地域出身の留学生がいます。留学生はホームルームに所属してクラスメイトと共に授業に出席し、学校行事やクラブ活動にも参加します。長期留学生から各国の文化や価値観、政治経済、他国から見た日本について学ぶこと多く、留学生は国際理解の重要な役割を担っています。



平和・共生



WEB「平和・共生学習」ページ

「平和を願う人」から「平和を実現する人」へ。

過去を見つめ、現在を知り、未来を描く。

これが、本校の平和・共生教育の理念です。

「他者と共に生きる」のは決して易しいことではなく、

現実には複雑な問題が山のようにあります。その山積みの問題から

逃げ出さずに、新しい知識と出会い、人と出会い、試行錯誤することで、

ジグソーパズルを組み立てるように未来を創造する力を養います。

「会いに行く」から、はじめよう。

平和・共生教育を支える力は、生徒たちの自発性、探究心です。フィリピンや東ティモール、岩手県宮古市などの訪問プログラムに参加した生徒たちは、数々の出会いの中で、地域の課題や地元の人たちと話をすることを「自分のこと」として悩み、考えるようになります。そして、考え抜いたアイディアを校内・校外で実行することで、さらに新しい学びや経験が生まれます。見栄えだけがよい支援活動ではなく、地道に、長期的に地元の人々と向き合ってきたからこそ見えてくる支援のかたちがあります。修学旅行でも同様に、長崎市の人々と出会い、インタビューや交流を通じて、平和やキリスト教などへの思いを受けとめることで生徒の心の中に未来への種火をともします。

修学旅行を軸にした平和学習

修学旅行は3泊4日で長崎から阿蘇までを中心に九州(北部)をまわります。特に長崎市では、「トロ神父と潜伏キリシタンの歴史を伝える」「長崎から世界への平和メッセージ」「長崎の歴史からグローバル社会を考える」など主題を設け、観光地を見学するだけではなく、新聞社への取材や放射線の研究施設への訪問、さまざまな専門家へのインタビュー、長崎市内の高校生や大学生とのディスカッション等を含む探究学習を行います。

岩手県宮古市の高校との交流

東日本大震災の年から岩手県宮古市の高校との交流を続けています。現地を訪れ、被災地について、防災について直接肌で感じながら学ぶとともに、異なる地域・環境の高校生が一緒に考えながら交流を深めています。文化祭には、防潮堤有名な田老地区の宮古北高校の生徒が来校し、コラボデザイングッズや特産ワカメのチャリティー販売を行うなど協力して活動しています。

青山学院フィリピン訪問プログラム

クリスマス礼拝での献金によってスポンサー(里親)支援をしているフィリピンの子どもたちに会いに行く訪問プログラムです。フィリピンで暮らすスポンサーチャイルドの家庭や学校、支援センターなどを訪問し、一緒に遊びながら、支援とはなにか、共に生きるとはどうすることなのか、といったテーマについて議論し、理解を深めます。青山学院初等部、中等部、大学と合同で行っている青山学院全体のプログラムです。

東ティモールスタディツアーア

東ティモールのコーヒー生産農家を訪問するスタディツアーアです。農村のフィールドワークを通じて教育、環境、医療などの地域の課題から、コーヒー産業とフェアトレードといったグローバルなテーマまでを広く研究します。この開発経済学の研究プロジェクトは、生徒自主学習団体BLUE PEKOと協力して取り組んでおり、文化祭ではBLUE PEKOによる研究報告、フェアトレードコーヒーの販売等を行っています。

平和・共生LogBook

本校では、多くの授業の中で平和・共生に関するテーマを取り扱っています。理科では原子力や放射線について学び、現代社会では核兵器にまつわる国際的な議論、平和憲法のあり方などを学びます。また、聖書の授業ではキング牧師の生涯を、英語では映画「Invictus」などを通じて、様々な文化的背景を持つ他者と共生する社会の在り方について、思考を深めています。これらの学びは3年間を通して行われ、生徒はさまざまな教科を横断した総合的な平和・共生学習の記録ノートである「LogBook」に学びの軌跡をまとめています。



▲国際政治学科の学生がつかむ国際社会：キューバ危機とシリア内戦を素材として（2019年度国際政治経済学部国際政治学科講座）



高大連携



WEB「高大連携」ページ

未来を見据えた学びで、可能性を切り拓く。

高校時代に触れる大学の学問は、
それぞれの専門分野の広さと奥深さを見せてくれます。
同じ敷地内に大学のほとんどの学部があるという
恵まれた環境を活かし、大学との連携を深め、
一貫教育のさらなる良き実りを得ることをめざします。

学問入門講座

土曜日の午前中に、青山学院大学・専門職大学院の教員が、それぞれ専門分野について高校生にわかりやすく講義をする「学問入門講座」を実施しています。生徒は自分の関心のある講座を自由に選び、大学での学問研究の面白さ、奥深さに触れることができます。

※2022年度は、感染対策のためオンライン視聴で実施しました。



▲中世日本の宗教美術における「オリジナル」と「コピー」
をめぐって（2019年度文学部比較芸術学科講座）



▲人に役立つ情報システムのつくりかた
(2019年度社会情報学部講座)

2023年度学問入門講座テーマ	
学部学科	講義テーマ
文学部	英米文学科 「英語ができる」とは？—第二言語習得論の観点から—
	フランス文学科 フランス詩入門。ボートレールの「旅への誘い」L'invitation au voyage を例として。
	日本文学科 軍記物語が映し出す女性の悲劇
	史学科 参議院研究の現在
	比較芸術学科 「歌舞伎はどこがおもしろいのか」
教育人間科学部	教育学科 教育格差を考える
	心理学科 発達と障害の心理学
経済学部	経済学科 データサイエンスの発展と課題
	経済学科 経済学入門—経済学の3つの原理について—
法学部	法学科 株式会社という仕組み
	ヒューマンライツ学科 「円安が日本経済に与える影響」
経営学部	経営学科 損益構造分析の基礎—1%の改善で利益はその何十倍も増加する—
	経営学科 「データサイエンスと統計学のエッセンス」
理工学部	物理科学科 重力波天文学の幕開け
	数理サイエンス学科 プリーズの数学
	電気電子工学科 ワイヤレス技術の今と未来
国際政治経済学部	国際政治学科 台湾、米中対立、東アジア
	国際経済学科 経済学への誘い—制度の経済学
	国際コミュニケーション学科 発音の仕組みを学んで語学力をアップさせよう！
総合文化政策学部	生命を捉えなおす—動的平衡の視点から—
	固定観念にとらわれない「日本音楽」入門
	「日本の国際文化政策」入門
社会情報学部	ビジネスで使われる数学～VaR 入門～
	多様性を活かした創造活動：共同体と自由
	投資・心理・統計
地球社会共生学部	国際協力を学ぶとは
	公共メディア（日本だと NHK）は必要か？
	コミュニティ人間科学部 コミュニティと博物館
国際マネジメント研究科	児童文学・絵本で考える～例ええばジェンダー、「コロナ」、そして平和～
	ゲーム理論で考える価格戦略
	会計プロフェッショナル研究科 「温暖化ガス排出削減」の記事を読み解く～企業情報のディスクロージャー～
キリスト教関連科目	キリスト教関連科目 人は裕福になれば幸福になれるのか—アダム・スミスの思想から—

大学授業の履修

3年生の希望者が放課後に青山キャンパスの大学の授業を履修して、内部進学した際にその単位が認められるという制度があります。大学生と一緒に場で授業を受けることは、「学問入門講座」とはまた違った意味で、知的探究心の向上につながると期待しています。

国際理解・留学準備プログラム

早い時期から海外への関心を高めてグローバル感覚を養うことを目的として、大学国際交流センターと共に以下の3つの特別講座を設けています。

- 海外体験の魅力やグローバル化への対応等の講義を含む「総合オリエンテーション」
- 海外留学の際に必要とされる英語検定「IELTS（アイエルツ）」の対策講座
- 大使館担当者が、自国文化の紹介や日本との繋がりなどを英語で講義する「大使館講義シリーズ」



▲大使館講義（フィリピン）



青山学院大学学部学科・ 大学院研究科一覧

大学	
文学部	英米文学科
	フランス文学科
	日本文学科
	史学科
	比較芸術学科
教育人間科学部	教育学科
	心理学科
経済学部	経済学科
	現代経済デザイン学科
法学部	法学科
	ヒューマンライツ学科
経営学部	経営学科
	マーケティング学科
国際政治経済学部	国際政治学科
	国際経済学科
	国際コミュニケーション学科
総合文化政策学部	総合文化政策学科
理工学部	物理科学科
	数理サイエンス学科
	化学・生命科学科
	電気電子工学科
	機械創造工学科
	経営システム工学科
	情報テクノロジー学科
社会情報学部	社会情報学科
地球社会共生学部	地球社会共生学科
コミュニティ人間科学部	コミュニティ人間学科
大学院	
文学研究科	国際政治経済学研究科
教育人間科学研究科	総合文化政策学研究科
経済学研究科	理工学研究科
法学研究科	社会情報学研究科
経営学研究科	
専門職大学院	
国際マネジメント研究科	
会計プロフェッショナル研究科（会計専門職大学院）	

教育課程

Educational System

主体性を持って「学び」を選択する。

青山学院大学への進学者は8割以上。受験勉強に偏ることなく学ぶことができるのが高等部の特徴です。

数多くの選択科目や総合的な探究の授業、大学教授による学問入門講座など、好奇心を刺激し、探求心が求めるままに選択できる学びの機会は豊富です。

多彩な選択科目から自らに必要な学びを掴み取る

本校は授業週5日制を実施しており、1日6時限（木曜日のみ7時限）で50分単位の授業を行っています。「愛と奉仕の精神」「思考力・判断力・コミュニケーション能力」「他者と共に生きようとする姿勢」「グローバルな視野」をもつ人間の育成に努めることを目標にカリキュラムを作成しています。

2年次からは文・理の選択科目が置かれ、3年次ではカリキュラムの半分を選択科目が占めます。これにより、各自の関心のある科目をより深く学習でき、青山学院大学への内部進学はもちろんのこと、多様な進路選択にも対応できます。

土曜日には総合的な探究の時間の一環として、青山学院大学・専門職大学院の先生方による《学問入門講座》（⇒11-12ページ）を開講しており、進路選択に役立てています。

カリキュラム

教科・学年	1年	2年	3年
01 聖書	聖書(1)	聖書(1)	聖書(1)
02 国語	現代の国語(3)	現代文総合I(2)	現代文総合II(2)
03 言語文化(2)	歴史総合(3)	政治・経済(3)	
04 地歴公民	地理総合(2)	公共(2)	
05 数学	数学I(3)	数学II(4)	3単位選択科目から3科目を選択(9) ^{注4}
06 数学A(2)	統計入門(1)	生物基礎(2)	
07 理科	物理基礎(2)	体育(2)	体育(2)
08 保健体育	保健(2)	英語コミュニケーションII(3)	英語コミュニケーションIII(3)
09 芸術	2単位選択科目から1科目を選択(2) ^{注1}	論理・表現II(2)	論理・表現III(2)
10 外国語	英語コミュニケーションI(3)	古典探究(I)または化学基礎(β)(3) ^{注2}	2単位選択科目から3科目を選択(6) ^{注5}
11 論理・表現I(2)			自由選択科目[総合的な探究の時間](2)
12 家庭	家庭基礎(2)		
13 情報	情報I(2)		
14	総合的な探究の時間		
15	ホームルーム		

注1 音楽I、美術I、工芸I、書道I

注2 理科の必履修科目に関しては、2年次までに3科目を履修するものとする。化学基礎を履修しなかった場合は地学基礎を履修するものとする。

注3 文学、数学B、化学基礎(a)、地学基礎、物理I、音楽II、美術II、工芸II、書道II、オーラル・コミュニケーションA、リテラシー、英語演習A、プログラミング入門

注4 古典探究(I)、地理探究、世界史探究、世界史特講、数学III、物理、化学、生物、選択美術、上級英語

注5 聖書特講、国語表現、国語特講A、国語特講B、日本史特講、世界史特講、マーケティング、地理特講、現代社会特講A、現代社会特講B、数学C、数学基礎演習、数学総合演習、数学発展演習、物理I、化学I、生物総合、地学、環境科学、球技A、球技B、体育特講(ダンス)、音楽III、美術平面、美術立体、工芸III、書道III、オーラル・コミュニケーションB、メディア・イングリッシュ、リスニング・コンピリエンス、英語演習B、食物基礎、被服基礎、ICT活用探究実践、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国・朝鮮語

* 選択科目は、希望者が多数であった場合は抽選があります。

平和・共生論文

「平和と共生」教育の集大成

本校の平和・共生教育は、「平和な社会、他者と共生する社会」を実現するために、具体的な課題を見つけ、解決しようとする態度を養うことを目的としています。

平和・共生論文とは、任意の社会課題を一つ決め、問題の分析や解決へのアプローチについて研究する論文で、本校では、生徒全員が執筆します。論文執筆の技術はM.アイゼンバーグの「Big 6 Skills Model」をベースにアレンジされたレクチャー動画「6ステップ」を用いて三年間をかけて修得します。この論文の執筆は「総合的な探究の時間」の一部に位置づけられており、生徒はこの執筆経験を経て、生涯学び続けるために必要な態度と技術を養います。また、学年で10名の優秀論文に選出された生徒の論文は『平和・共生論文集』に全文が掲載されます。

71期生 平和・共生論文 タイトル例

- 中・高等学校におけるジェンダー教育の必要性
—日本の将来は教育現場にかかっている—
- プラスチックというものに持続可能性はあるのか
- 動物愛護という流行
—動物神話・哲学論争における動物観の表象から探る—
- 新必修科目「地理総合」と国際理解
—地理総合を糧に多文化社会をどう生きるか—
- 女性の社会進出への課題 —マミートラックから読み解く—
- 東北被災地の復興支援活動を見つめる
—風評払拭と被災者の豊かな暮らしを目指して—
- 遺伝子操作によって生まれまる 子どもは幸せになれるのか
- 学生はメンタルヘルスとどのように向き合うべきか
—ストレス社会に生きる若者の声—
- コロナ禍で明らかになった宗教の諸問題と変革
- 日本における同性婚の可能性



論文発表会



平和・共生論文集

ICT教育

深い学びの実現と情報活用能力の育成

協働的な問題解決学習や探究的な学び・時間や空間の制約を超えた学びの深化のため、多様な教育活動を可能にし、より深い学びを実現するツールとしてICT機器を利活用しています。

同時に、学習の基盤となる情報活用能力・情報社会における責任ある態度の育成を目指します。

ICT 教育推進の歴史

-2018	校内無線LAN環境の整備
	全普通教室に電子黒板を設置
2019	G Suite for Education (旧称) を導入
	全校生徒にGoogleアカウントを発行
2020-21	1人1台の学習用端末導入 (1年生)
	ICTステーション開設
	1人1台端末の環境の拡張 (1、2年生)
2022	全校生徒1人1台環境

ICT 機器を用いた教育実践

授業

意見を同時に書き込みながら行うグループディスカッション、協働で作成した資料を用いたプレゼンテーション、クイズアプリを用いた学習成果の発表、自分の体の動きを端末で撮影・分析して改善に取り組む(体育)といった活動を実施しています。



学校生活

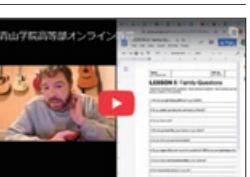
アンケートフォームを用いた意見収集や希望調査、プリントのオンライン配布、ビデオ会議ツールを利用した外部とのインタビューなど、学校生活全体でICT機器の利活用が進んでいます。



オンライン教育期間への対応

オンライン教育となった際には、学年やクラス・授業ごとに作成されたGoogle Classroomを通じて連絡事項や課題を配信しています。

授業ではオンライン課題や授業動画の一方的な配信だけでなく、リアルタイム双方向型の授業やアンケートフォームを用いた学習状況の確認などを実施し、互いにコミュニケーションを取りながら学習を進められるよう工夫しています。また授業以外でもビデオ会議ツールを利用してホームルーム活動や委員会活動を行っています。



ICT 教育の今後

ICT機器はあくまでもツールの一つであり、使うことが目的ではありません。「よりよい学び」とより豊かなコミュニケーションのためのツールとして、使い方をよく考え、責任をもって利用していくことを忘れることなく、適切に機器を利用しながら、情報社会により良く参画していく態度を自ら学び、養っていくことができる教育に取り組んでいきます。

教科学習

幅広い視野をもち
人間としての基礎力を持つ

聖書

青山学院の心を学ぶ

聖書の授業は、一教科の学びとして位置づけられていますが、学問的な領域にとどまらず、スクールモットーの「地の塩、世の光」が表す人間形成を目指し、この時代を生きていくことについて聖書から学びます。青山学院での学びの土台となる授業です。

外国語

「英語の青山」の名にふさわしい良き伝統

英語を学ぶことを通して、普遍的なものを追い求める心を養い、広く世界全体に目を向けて、国や文化の違いを超えて社会に貢献できる人を育てることを目指します。必修授業では習熟度別に授業を行い、各生徒が自分のレベルに合ったスピードで英語を学習できるように配慮しています。選択の授業では、英語を道具として使い映像作品を作成して発表する発信型の授業、長文読解や文法演習を行う授業、CNN やNews website を扱う授業など、生徒のニーズに合わせた幅広い種類の授業を用意しています。

また、第二外国語として、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国・朝鮮語を選択することもできます。

国語

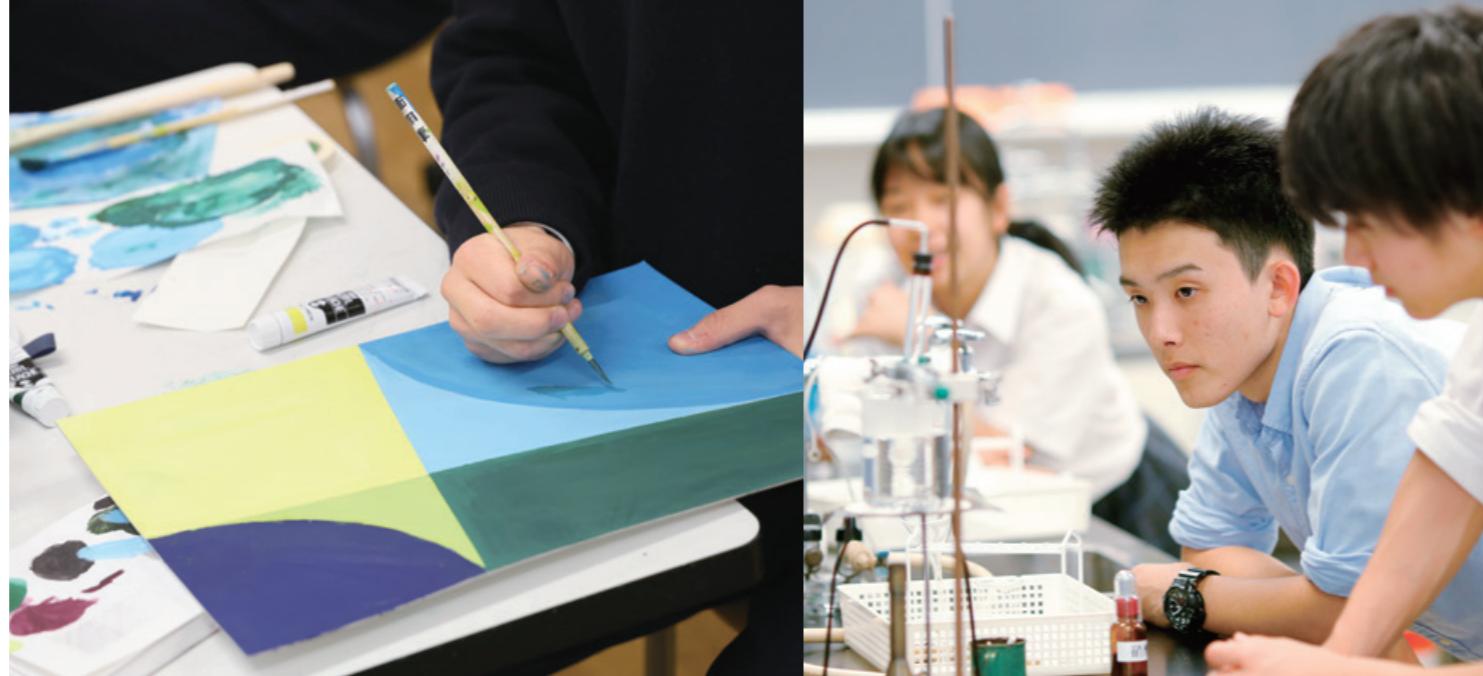
言葉を正しく理解し、自分を表現する力を養う

国語科の目標は「読解力を養い、表現力を身につける」ことにあります。高等部では近・現代の文学に加えて古典にも重点をおき、生徒一人ひとりの日本文化総体に対する関心が深まるこことを最終的な目標としています。

地歴・公民

身近なことから世界を広げる

①現代の複雑な世界が形成されてきた過程をさぐる歴史、
②地域的・空間的視野から自然や社会をとらえる地理、
③政治・経済などの社会的構造から物事をとらえる公民、
という三つの大きな視野から社会現象を見ていきます。また、選択科目の特講では、グループ学習、レポート、討論、発表などを通じて、自ら調べて考えるなかで、主体的な学習能力、課題に対する分析力、論理的思考能力、表現力など、これから社会を担う力を育てるこことを目標とします。



数学

数学は文化である

数学は、先人たちが長い時間と多大な労力を費やして発展させてきたものです。このような“文化”としての数学を学ぶことを念頭におきながら、現代文明に必要な不可欠な数学的素養を培います。2年生では、統計の基礎を体系的に学ぶ時間を設けます。授業を通して数学の基本的な技術を習得することにより、柔軟な論理的思考や創造性が生まれます。そして身につけた知識を駆使し、自ら問題解決ができる能力を育みます。

理科

冷静な分析と総合的な判断

現代社会は環境問題をはじめ多くの問題をかかえています。その責任が科学にあるように言われることもあります。はたしてそうでしょうか。冷静に問題を分析し、誰にでもわかる言葉で解決の道筋を模索することが問われているのではないかでしょうか。理科において一番大切なことは自然から学ぶことです。そのため実験や観察を重視し、できる限り多くの時間を割くようにしています。

保健体育

心身ともに強く成長することを願って

生涯体育を実践する基礎を培う高校時代。青年期に必要な運動量を確保し、生徒が主体となって協働的に取り組み、創意・工夫・協力して運動が行える種目を実施しています。保健では身近な事柄を教材にとりあげ、生涯において必要な保健的知識を習得し、実践的な健康・安全管理ができることを目標としています。

家庭科

生活全般を実践的に学ぶ

家庭科では、人間が生きていくために欠かせない、生活の基本的な知識および技術を学ぶだけでなく、現在の家庭を取り巻く諸問題にも目を向けさせます。そして、自立した生活者としての意識を高め、自分はどのような生活・人生を送りたいのかを考える機会を与え、自分の生活・人生をデザインする力を身につけることを目指します。

芸術

豊かな心

音楽、美術、工芸、書道の各授業を通して、国際社会における教養としての知識・技術を学ぶとともに、自らの考えを表現することや社会の中の芸術や文化に真摯に向き合う姿勢を育みます。また鑑賞や発表を経験することで他者への理解を深め、豊かな心を養います。

情報

欲張りに探究する心、的確に判断する力を

次の3本柱を中心に、その知識と技術を身につけることを目標にしています。
I.情報処理の大切さと注意すべき点を心得る
II.情報処理の道具として、ハードウェアの仕組み、ソフトウェアの使い方を習得する
III.IおよびIIを踏まえながら、1つのテーマに関する問題解決や探究学習を実践する

選択科目

上級英語

英語で考える「世界の現状」

今日世界が抱える問題(戦争、差別、貧困など)について学んでいます。これらの問題が互いにどのように結びつき、その背後にどのような原因があるのかを考えます。その過程において、生徒は各テーマに関連した約400の表現を学び、それらとつながりの深い言葉を自ら考えます。その上で話し合い、発表へと展開させていきます。高等部の中でもっともチャレンジングな授業のひとつです。ネイティブ教員が担当。

リスニング・コンプリヘンション

「生きた英語」を身につける

スピーチ、ニュース、ヒットソング、映画などのディクテーションを通して、文法、語法、発音、英語の正しい発話の仕方などを体系的に学んでいく授業です。歴史上の名スピーチを聴き取って暗唱し、それを講堂の舞台で発表してみたり、集大成のグループプロジェクトとして、映画のアフレコ制作に取り組んだりしています。アフレコでは班ごとに映画の台詞を聴き取って台本を起こし、映像に合わせて皆が役を演じながら、自然と生きた英語を身につけていきます。

オーラル・コミュニケーションB

成功のための「会話を超えた」ツール

何も持たずに1,200席のPS講堂のステージに立ち、スライドを用いて、堂々と行われる英語のプレゼンテーション。この授業では、簡単な物語紹介からフォーマルなディベートにいたるまで多岐に渡るスピーキングを学びます。発音や語彙の指導はもちろんのこと、週ごとのインターネット教材を駆使したサポートを徹底し、オリジナルな着想から表現までに必要となる技術を養います。ネイティブ教員が担当。

国語表現

「書く」ことで表現力・思考力を磨く

基本的な技術や表現の工夫を確認しながら、文章力の向上を目指します。互いの文章への批評や、ディベート形式の議論、グループ発表等も行い、意見や主張を理解し合う経験を重ねています。論理的文章だけでなく、自由な発想で「書く」ことを楽しむ課題もあり、表現力・論理的思考力をバランスよく身につけることを目指しています。年度末には編集委員をたてて記念文集を作成しています。

選択美術

自己探求のその先に

選択美術は3単位の選択科目です。1、2年次で学んだ内容を土台にして、自らの感じたことや考えたことを造形作品として出し、発信するまでのプロセスを大切にします。油彩画や自由制作に長い時間をかけて悩みながら取り組むことで自分と向き合い、今まで気づかなかった一面を知る機会になればよいと考えています。また社会に目を向け、自ら作品のテーマを探す姿勢も重要です。そして美術室には同じように全力で表現に向かう仲間がいます。制作中に交わす何気ない意見交換や作品の鑑賞と対話を通して、他者とのコミュニケーションについても深く考えることのできる授業です。



現代社会特講 B

ディベートで学ぶ社会の諸問題

「憲法第9条を改正すべきか」、「核廃絶は可能か」、「過去の戦争とどう向き合うべきか」といった政治学における主要なテーマから、「ネット言論を規制すべきか」、「積極的安全死を法的に認めるべきか」といった時事的な問題まで、様々な課題を設定し、グループで話し合い、必要な資料を集め、作戦を練った上で、ディベートを行います。その過程で、自身の考えとは異なる意見に触れて広い視野を身につけること、論理的思考力を養うことなどをめざしています。

生物総合

「実物」に触れて学ぶ

生物総合では「実物を見る」ことを大事にして生物学の中でも系統分類と進化の分野について学びます。年間を通してほぼ毎週、解剖・観察や実験などを行っており、グループワークなども取り入れて生徒が主体的に学べる工夫を行っています。解剖や観察では様々な生物(ヒドリ、プラナリア、ハマグリ、イカ、エビ、カニ、アジ、マウス、植物など)の形態や特徴を知ることにより生物同士が系統的にどのような関係にあるのか学んだり、環境にどのように適応してきたのかを予想したりすることができます。また、国立科学博物館見学など校外での実習も行っています。

マーケティング

過去の文脈を学び、未来をデザインする

マーケティングでは、コーヒー市場をテーマに探究学習を行います。前期には、青山学院高等部が継続的に支援している東ティモールのコーヒー農園の事例をもとに、コーヒーのグローバル・マーケットの歴史と展開、フェアトレードの意義と課題などについて議論します。後期には、「持続可能なコーヒー文化をつくる」というテーマのプロジェクト・ベース学習を行います。古今東西のマーケティングの事例研究を通じ、「市場」という抽象的な概念について考察します。

環境科学

「未来」を生きるための思索

身近な自然環境問題を科学的に調べ、未来に生かすことのできる知識を身につけます。講義の他、共通で行う実験、様々な環境問題(大気汚染物質の測定、食品添加物、温暖化、ゴミ問題、リサイクル、水の処理、放射性廃棄物、騒音、生物の多様性と絶滅、エネルギー問題など)の中から検証可能なテーマを選び、資料を集め、調査、実験、討論などを行い、最終的に論文にまとめ、研究発表します。

球技A/B・体育特講(ダンス)

身体活動を通じて「表現力・リーダーシップ」を高める

球技A/Bでは、自分たちが選んだ種目をチームに分かれて分担し、計画・実行・評価まですべてを実践します。体育特講(ダンス)ではダンスを踊る・創るという活動を通じて互いの良さを認めあい、テーマ・振付・構成をすべて自分たちで考える発表会を行っています。「考える(計画)・課題発見・実践する(実践・解決)・評価する(自己評価)・探究する(考察)」事を自主的に行い、運動に対する理解を深めます。また、仲間との関わりを通して自らの経験や技術を人に伝えるという「表現力・リーダーシップ」を身につけることをめざしています。

SCHOOL CALENDAR

年間行事



3年間の思い出は

大切な仲間たちと一緒に

ホームルームデー

1・2年生を対象に、毎年5月の初旬にホームルームデー（クラス単位で行く日帰り旅行）を行っています。各クラスで自分たちの行きたい場所を独自に選び、企画運営し、親睦を深めています。



2年 陸上競技大会

授業での取り組みの成果発表として、クラス対抗の陸上競技大会を行います。7種目の競技を2日間かけて順番に行い、それぞれの配点を加点していき総合得点で順位を競います。競技会の運営も体育係を中心に行われます。

スノーキャンプ

1年生から3年生までの希望者を対象に、ルスツリゾート（北海道）にて実施。大自然の中、真冬の屋外スポーツ（スキー・スノーボード）を通じて、心と身体を鍛え、友人や仲間との親睦を図ることを目的に行ってています。それぞれの技術班に分かれてインストラクターに教わるので、経験者はもちろん、未経験者も新たなスポーツに挑戦可能です。



4 APRIL

5 MAY

6 JUNE

7 JULY

8 AUGUST

9 SEPTEMBER

10 OCTOBER

11 NOVEMBER

12 DECEMBER

1 JANUARY

2 FEBRUARY

3 MARCH

- 入学式
- 新入生歓迎会
- クラブ紹介
- イースター礼拝
- 定期健康診断

- ホームルームデー
- 3年進学指導会
- 伝道週間

- バレーボール大会
- 生徒集会（ミュージックフェスティバル）
- グローバル・ウィーク I

- 夏期行事
グリーンキャンプ
クラブ合宿・強化練習
カナダホームステイ
生徒会サマーキャンプ

- 夏期行事
クラブ合宿・強化練習

- 文化祭
- クレスピ校生徒訪問
- 2年進学指導会

- グローバル・ウィーク II
- 伝道週間
- リーズスクール生徒訪問

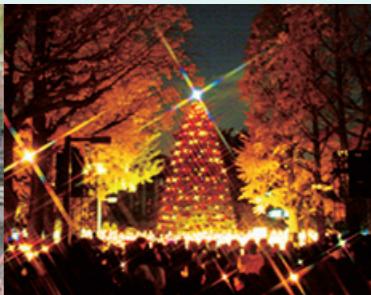
- 2年修学旅行
- 青山学院創立記念日
- 2年ダンス発表会
- クリスマスツリー点火祭

- クリスマス礼拝
- スノーキャンプ

- 推薦入試
- 帰国生入試
- 2年陸上大会

- 一般入試

- 卒業礼拝
- 送別会
- 卒業式
- スノーキャンプ
- クラブ合宿



修学旅行

2年生の11月に九州を訪れます。各自研究テーマを持って、原爆資料館、軍艦島、九十九島めぐり、阿蘇山などさまざまな場所を訪れ、行く先々で歴史、自然、文学、生活、産業、地理などを学び、平和について考えます。（→P.10参照）



SCHOOL DAY

高等部の1日

7:30 開門	8:15 ~ 9:05 1時限	9:15 ~ 10:05 2時限	10:15 ~ 10:35 礼拝	10:40 ~ 11:30 3時限	11:40 ~ 12:30 4時限
12:30 ~ 13:20 昼休み	13:20 ~ 13:30 HR	13:40 ~ 14:30 5時限	14:40 ~ 15:30 6時限	15:15 ~ 16:00 7時限	18:00 終鈴

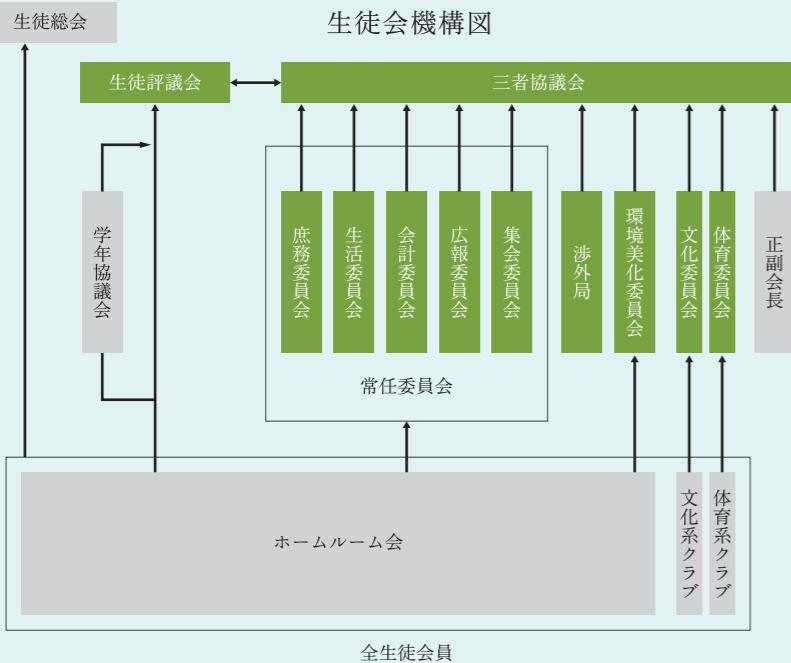


STUDENT COUNCIL

生徒会

自主性を尊重し、責任ある行動を促す

生徒会は、自由な校風と言われる本校の自主的な活動の要を担っています。バレーボール大会や文化祭などの行事の企画・運営やボランティア活動、他校との交流などのはか、生徒の学校生活に関する要望を常時受け付け、学校の規則について全校生徒を巻き込んで議論し、時にはそれを変える運動も展開してきました。また、ホームルームデー（遠足）や修学旅行のコースなどは、生徒の代表を中心に各クラスで話し合いを行い、決定しています。このように、生徒会やホームルーム活動を通して、一人ひとりの責任ある行動が養われています。



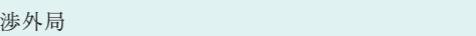
見えなかつた景色を見るために

2022年度生徒会長 71期生(2022年度卒業生) U.H.

高等部の行事といえば、バーレーボール大会です。コロナ禍になってから種目変更や学年別での実施をしていたため、従来の大会経験がない私達は「全校同時開催」を目標に掲げました。しかし、感染状況や天候を考慮する必要もあり、同時に4パターンの大会形式を考えるという大きな壁に挑みました。このような中で目標としていた全校同時開催を実現できたのは、仲間と対話を繰り返したからだと思います。実行委員会と全校生徒とが目的・想いを相互に共有しながら進め、一から行事を作り上げることは、一体感・充実感を得られるだけでなく、自分の視野を広げることに繋がりました。大会終了後は、生徒会長として多角的に同時並行で物事を進める機会が多く、さらなる行事の企画運営に加え、よりよい学校生活に向けた取り組みなども行う日々を駆け抜けましたが、どのような学校にしたいかを全校で共有し目的を持って進めば必ず、見えなかった景色が見えることを学びました。高等部の生徒会は非常に組織として機能していることが強みです。皆がそれぞれの場所で一つの目標に向かい、全力を出せる環境が整っています。思い返せば、全てが仲間たちとのかけがえのない青春です。

生活心得

青山学院高等部の生徒手帳には、学校が生徒に対して課す“校則”ではなく、教員と生徒の合議によってつくりあげた“生活心得”が記載されています。“心得”的冒頭の「全員で努力していきたい」という言葉には、自由な校風を大切にして、自主性と責任感を養って欲しいという思いが表れています。



討論会 WAN

生徒評議会

各HRの代表



生徒会主催の行事

バレーボール大会

学年別クラス対抗で行われるバレー大会は、生徒会役員を中心に、各ホームルームから選ばれた運営委員の手により運営されています。昼休みには、年間を通してバレーの練習に打ち込む姿が見受けられるほど、全校生徒が熱くなる行事です。

文化祭

挙で選ばれた本部役員を中心に「文化祭実行委員会」が組織され、文化祭が企画・実施されます。文化祭期間の2日間、全校生徒は各ホームルーム、有志団体、クラブなどさまざまな場で、個性溢れる企画や日頃の努力の成果を披露します。

ミュージックフェスティバル

年6月には生徒会の集会委員会が企画・運営するミュージックフェスティバル行われます。バンドを中心としたダンス、パフォーマンスなど、激戦のオーディション勝ち抜いた団体が熱演を繰り広げます。

生徒会主催サマーキャンプ

夏休みに高等部追分寮にて行われるキャンプには、生徒会役員だけでなく一般生徒も参加して、学年や立場の垣根を越えて学校のあり方についてディスカッションをし、バーベキューや花火大会などのアクティビティで親睦を深めます。

制服



SCHOOL UNIFORM

CLUB ACTIVITIES

クラブ活動



クラブ活動は、人格形成の大切な機会として、各クラブの裁量に任せて生き生きと行われています。生徒の多くは、内部進学が可能な学校の特徴を活かして、3年生の半ばまで活動に打ち込んでいます。

[クラブ一覧]

文化系

クラブ

- 文化部
- プラスバンド部
- マンドリン・ギター部
- ライフ・サイエンス部

同好会

- 漫画・イラスト同好会
- 調理研究同好会
- 茶道同好会
- 弦楽アンサンブル同好会
- 生花同好会
- 演劇同好会

特設クラブ

- A B F(聖書交友会)
- ボランティア部
- 聖歌隊
- ハンドボール部
- オルガン部
- 出版部
- 放送部

生徒中心で運営し
思いきり打ちこむ時間



生徒主体という魅力

2022年度体育委員長 71期生 (2022年度卒業生) F.Y.

高等部の放課後では、美しい音色や活気のある応援の掛け声が耳に届いてきます。高等部のクラブ活動の魅力は、生徒主体でクラブを運営し、仲間と協力して目標に向かうところです。先生やコーチと相談しながら、発表会や大会に向けたスケジュール、練習計画や演技構成などを生徒が中心となって決めています。私たち71期生はコロナウイルスの影響でクラブ活動が中止となったり、練習が縮小される時期もありました。しかしこのようなときも、オンライン上で集まって話し合いを進めたり、トレーニングをするなど、突然の変化にも各クラブで考えて対応していました。このときは、生徒がクラブに対して抱いている責任を強く感じました。

高等部では伝統を引き継ぐだけでなく、自分たちの力で更に良いクラブを作り上げるため、年にによってクラブの色が変化します。生徒主体でクラブを運営することは容易くはありませんが、これが、クラブ活動の魅力であると同時に高等部の魅力の1つでもあるのです。

個人対抗フルーレ 第4位 第59回東京都高等学校フェンシング学年別大会 1年男子個人フルーレ 優勝、第3位 1年女子個人フルーレ 第3位 2年女子個人フルーレ 第3位 ●ダンス部 東京都私立中高創作ダンス発表会 創作ダンス 奨励賞 ●女子ハンドボール部 第3支部総合体育大会 第2位 東京私立中学高等学校ハンドボール選手権大会 8位入賞 東京都高等学校ハンドボール教育研修大会 第3位 ●チアリーディング部 USA Japanチアリーディング&ダンス学生選手権大会2022 EAST高校編成 Show Cheerleading部門 Novice 第1位、ベストインプレッション賞 ●男子バスケットボール部 第3支部体育大会 第2位 ●生花同好会 小原流学生いけばな競技会 南関東地区大会 個人 最優秀賞、優秀賞、準優秀賞 小原流学生いけばな競技会 南関東地区大会 団体 第3位 ●プラスバンド部 第62回東京都高等学校吹奏楽コンクールB組 金賞 ●男子テニス部 第62回東京都高等学校テニス選手権大会 男子シングルス 優秀賞 第61回東京都高等学校新人テニス選手権大会 男子シングルス 優秀賞 男子ダブルス 優秀賞 第46回東京都私立中学高等学校テニス選手権大会 男子シングルス 優秀賞 ●女子テニス部 第46回東京都私立中学高等学校テニス選手権大会 女子シングルス 優秀賞 ●剣道部 令和4年度東京都高等学校体育連盟秋季剣道大会 剣道男子II部 大会 第3位 剣道女子II部大会 敢闘賞 文化系クラブ ●聖歌隊 東京・春のコーラスコンテスト2023ユース女声部門 銀賞 ●美術部 第50回東京私立中学高等学校 生徒写真・美術展 美術の部(高校) 特選、奨励賞

FACILITIES

校内施設

西校舎	北校舎	PS講堂	カフェテリア
ホームルーム教室 特別教室 -生物A・B -調理 -被服 書道 大教室 小教室 集会室 多用途室 生徒会室 放送室 保健室 相談室	ホームルーム教室 特別教室 -CALL教室A・B -物理A・B -化学A・B -地学 -音楽 -美術 -工芸 -彫刻陶芸 音楽練習室 器楽練習室A・B・C 小教室A・B・C 多用途室A・B 和室	講堂 オルガン練習室 図書館 PC実習室A・B	グラウンド テニスコート
		体育館	校外施設
		メインアリーナ サブアリーナ プレイルーム 柔道場 保健実習室 トレーニングルーム 更衣室 部室	高等部追分寮

2008年から2014年にかけて行われた高等部校舎建築。

古き良き伝統を受け継ぎながらも、時代の要請に沿って機能性、安全性の高い快適な環境づくりを進め、未来の教育の場にふさわしい校舎となっています。明るい校舎と充実した施設・設備により学習環境が向上し、広々とした空間でクラブ活動もより一層のびのびと行えるようになりました。噴水のあるウッドデッキの中庭や、大きな藤棚に面したカフェテリアは、生徒たちの憩いの場となっています。



進路

高等部を卒業する生徒の約85%は、青山学院大学へ進学しています。
その他専攻分野などの関係で他の大学を受験する生徒が約15%おります。内部進学は、高等部3年間の学業成績、3年次に行われる学力テストの結果その他を総合的に判断して推薦が行われ、大学側の決定を経て、入学が認められています。



青山学院大学への進学

		2023年	2022年	2021年
青山学院大学	文学部	英米文学科	11	11
		フランス文学科	1	2
		日本文学科	4	2
		史学科	1	3
		比較芸術学科	17	17
			18	
教育人間科学部	教育学科	18	17	22
	心理学科	13	13	12
経済学部	経済学科	43	40	25
	現代経済デザイン学科	4	4	4
法学部	法学科	25	25	24
	ヒューマンライツ学科	6	11	-
経営学部	経営学科	53	53	53
	マーケティング学科	32	32	32
国際政治経済学部	国際政治学科	23	23	23
	国際経済学科	23	23	23
	国際コミュニケーション学科	14	14	14
総合文化政策学部	総合文化政策学科	47	47	47
理工学部	物理科学科	1	0	0
	数理サイエンス学科	0	0	0
	化学・生命科学科	5	0	3
	電気電子工学科	1	1	2
	機械創造工学科	2	1	1
	経営システム工学科	3	1	0
	情報テクノロジー学科	2	8	6
社会情報学部	社会情報学科	5	10	4
地球社会共生学部	地球社会共生学科	0	2	3
コミュニティ人間科学部	コミュニティ人間科学科	0	1	1
	計	354	361	344
外部大学・その他		54	53	63
卒業生総数		408	414	407

生徒在籍数

	ホームルーム数	男子	女子	計
第1学年	10	202	215	417
第2学年	10	199	212	411
第3学年	10	186	219	405
総 計	30	587	646	1233

(2023年4月現在)

(2023年4月現在)
(国公私立50音順 過年度卒業生を含む)

人生の基礎と今の仕事スタイルを築いた青山学院高等部

伊神 満さん
イエール大学経済学部准教授

Profile
1997年、高等部卒業。東京大学教養学部文科一類に入学。証券アナリストを経て、同大学院経済学研究科で修士号、米カリフォルニア大学サンゼルス校(UCLA)で博士号を取得。専門は産業の経済学、特に競争と技術革新の実証分析。

帰国した際、高等部の生徒がポロシャツの裾を出している姿を見て、とても懐かしい気持ちになりました。高等部時代に生活委員長を務めていた私は、ポロシャツの裾出しを認めてもらいたいと先生方に談判していました。私の代では生徒と教員間で話し合いをしている途中だった「ポロシャツの裾出し」が今は認められたと知って、微笑ましく感じると共に、生徒が主体性を持って学校生活を送っていた高等部での日々を思い出しました。

もう一つ懐かしく思い出したのは、教員という仕事を楽しみ、人生を充実させていた先生方です。一年目の担任の先生は、青年海外協力隊でケニアに滞在していた頃の話をしてくださいました。巨大なゴキブリが電線を伝って寝床に入ってきた様子を、スライドを使ってとても楽しげに話してくれたことを今でも覚えています。放課後に友人に勉強を教えていた私の様子を見て褒めただけ、「人に教える」ことの喜びに気が付かせてくださった方でもあります。二、三年目の担任の先生は中国の唐時代の詩がご専門で、当時の中国語の発音そのままに漢詩を読んでくれました。それぞれ独自のスタイルを持ち、色々な世界を垣間見せてくださいました。先生方の印象は、「教員っていいな」と思えるものであり、私自身の「大学で教える」という仕事にもつながっています。

私のメインの仕事は、経済学の研究です。研究は、やろうと思えば24時間365日を費やすこともできてしまいます。そのため、いかにして仕事と私生活のバランスをとるか、がとても重要です。思えば、今の働き方の基礎は、勉強する方向性を決め、自分で細かなスケジュール管理をしていた高等部時代に築かれたような気がします。当時は英語やスペイン語、読書など、知識を吸収することに熱中していましたが、クラスの友人達もまた、それぞれが好きな世界に没入していました。趣味や進路は異なっても、なんとなく仲が良くて、それぞれが追究する世界を共有し合う、今思えば大人っぽい開放的な関係でした。

個々が自由に好きなことに取り組みつつも、互いの考え方や興味を尊重し、認め合い、主体性を持ってより良い学校生活を実現しようとしていた高校生活。青山学院高等部で過ごした時間があつたからこそ、今の私があるのだと思います。



MESSAGE >

卒業生メッセージ



全体に溶け込みながら自分を見つめる 重要性を学んだ高等部の礼拝

閑野 らんさん
墓地設計家／ランドスケープデザイナー／建築家
SRAN DESIGN Inc.代表 WEB:www.sran.jp



私は今、主に「墓地の設計」を仕事にしています。「墓地」というと、墓石がズラーっと並んでいる光景を思い浮かべる方が多いと思いますが、私は、今までにない新しい埋葬形式のお墓の設計をしています(QRコード参照)。大学院時代の教授が『死』は人間にとて最も重要なことであるにも関わらず、墓地は都市計画に入っていない。きちんと研究することが必要だ。』と問題提起し、墓地研究会を立ち上げたことをきっかけに墓地に興味を持ちはじめ、学生時代に実際の墓地を設計する貴重な機会もいただきました。もともと私は人生の「ハレの日」に関わる空間設計に興味を持っていましたが、冠婚葬祭の中でも最も難しいとも言える先祖供養を意味する「祭」に、一番最初に関わることとなりました。弔いである「祭」は死生観と密接に結びついていますが、高等部で経験した毎日の礼拝は、私の死生観にも色濃く影響を与えているのではないかと思っています。

当時の私にとっての礼拝は、憧れの先輩に会えたり授業の合間にホットできる時間でしたが、先生のお話をうかがいながら自分を見つめる貴重な時間でもありました。

私は墓地設計に関わる上で、「個別性・連続性・全体性」という言葉を自分のキーワードとしています。人はそれぞれが唯一無二の存在であると同時に周囲の環境との繋がりの中で生きている。自分が生きている時間は限りあるものだが、それは祖先から次の世代へと流れている時間の中にある。<私>という固有の存在が、時間的にも空間的にも連続性の中で生きていることを感じられることが重要だと考え、私が設計するお墓でもそのようなつながりを感じられる空間を目指しています。これは高等部での礼拝の時間に、全校生徒が集う空間に自分自身も溶け込みながら、個と向き合うという体験からもつながっている気がします。

東京大学に進学した私は、世界でも最先端の土木技術を持つ先生方に出会うことができました。周囲は先生も学生たちも研究熱心な方ばかりで、切磋琢磨しながら常に学び続けることは非常に充実した時間である反面、自分自身も頑張り続けなければいけない、という重責もありました。社会人になった今、高等部の友人に会うと、皆穏やかで仕事も趣味もバランスよく人生を楽しんでいて、一緒に過ごすと自分まで心穏やかになります。高等部で学べること、身につけられる大切なことは、授業から得られる知識だけでなく、互いを尊重し認め合う、自由で穏やかな人柄なのかもしれません。

私の高等部時代と様変わりした校舎を見ると時の流れを感じます。様々な価値観が多様化していく今、私が学んだのと同じ空間の中で今生きている高校生の皆さんと、生きること死ぬこと、死生観などを語り合ってみたいですね。

Profile
2001年、高等部卒業。東京大学工学部社会基盤学科卒、同大学院修士課程を修了。大学院在籍中から新しい埋葬形式を探求した墓地の設計に携わる。設計を手掛けた八王子の風の丘樹木葬墓地は、「自然に溶け込む土に還る」がコンセプト。

入試情報

2024年度入学試験について

	推薦入試	帰国生入試	一般入試
募集人員	男女合わせて約65名	男女合わせて約25名	男女合わせて約70名
出願資格	<p>① 本校を第一志望とし、合格の際は入学を確約できる者。</p> <p>② 2008(平成20)年4月2日より2009(平成21)年4月1日までに出生の者で、2022年4月以降国内の中学校(学校教育法第1条に掲げられた中学校もしくは中等教育学校の前期課程)に在籍し、2024年3月に卒業・修了見込みの者。</p> <p>③ 3年2学期の9教科の評定合計(5段階)が40以上であること(男女とも)。また、2年次の学年評定および3年2学期の評定に「2」以下がないこと。</p> <p>※ 3年2学期の評定とは、12月時点の成績(1学期からの総合成績)で、公立高校に提出する成績と同一のものであること。</p> <p>④ 3年次の欠席日数が5日以内で、2・3年次の欠席日数の合計が10日以内であること。</p> <p>⑤ 保護者のもとから通学可能な者(一般入試の項参照)。</p> <p>※ 上記の出願資格条件は、推薦入試合格を確約するものではありません。</p>	<p>① 保護者の海外勤務等に伴い、1年以上継続して、現地校、インターナショナル校、または全日制日本人学校に在籍していた者で、帰国後2年10ヶ月以内(2024年度入試の場合、2021年6月以降の帰国)であること。</p> <p>※ なお、本校への入学予定日(4月1日)を資格算定の基準とします。</p> <p>※ 本人が単独で海外留学した場合は該当しません。</p> <p>② 2007(平成19)年4月2日より2009(平成21)年4月1日までに出生の者で、次の[A]、[B]のいずれかに該当する者。</p> <p>[A] 2024年3月に中学校を卒業見込みの者または2023年3月に中学校を卒業した者。</p> <p>[B] 海外の現地校、インターナショナル校、または全日制日本人学校に在籍している者(もしくはこれらの学校で中学課程を修了した者)。なお、日本の学齢に換算して中学3年生にあたる場合は、出願時に現地のGrade9を修了していないてもよい。</p> <p>③ 保護者のもとから通学可能な者(一般入試の項参照)。</p>	<p>① 2007(平成19)年4月2日より2009(平成21)年4月1日までに出生の者で、次の[A]、[B]のいずれかに該当する者。</p> <p>[A] 2024年3月に中学校を卒業見込みの者または2023年3月に中学校を卒業した者。</p> <p>[B] 海外の現地校、インターナショナル校、または全日制日本人学校に在籍している者(もしくはこれらの学校で中学課程を修了した者)。なお、日本の学齢に換算して中学3年生にあたる場合は、出願時に現地のGrade9を修了していないてもよい。</p> <p>② 保護者のもとから通学可能な者(本人のみの下宿、アパート、会社等の子弟寮からの通学は認めません)。</p> <p>保護者は父もしくは母が原則ですが、やむを得ない理由で不可能な場合は、東京またはその近辺に一家計を立て(就学中の兄・姉等は不可)、学校との連絡が容易にされ、直ちに来校できる、親権者と同等の責任を持つ在京保証人が必要であり、入学後はその家庭から通学していただくことを条件といたします。</p>
選抜方法	適性検査、面接、書類審査	適性検査、面接、書類審査	国語・数学・英語(リスニング含む)、書類審査
インターネット出願入力期間	12月20日(水)0:00~1月16日(火)18:00	12月1日(金)0:00~1月10日(水)18:00	12月20日(水)0:00~1月27日(土)18:00
出願書類受付期間(郵送のみ)	1月15日(月)~1月16日(火) (締切日消印有効)	1月6日(土)~1月10日(水) (締切日消印有効)	1月25日(木)~1月27日(土) (締切日消印有効)
入学試験日	1月31日(水)	1月31日(水)	2月12日(月・祝)
合格発表(インターネットのみ) 手続書類交付	2月1日(木)20:00~(予定)	2月1日(木)20:00~(予定)	2月13日(火)20:00~(予定)
入学手続き	書類提出	2月2日(金)13:30~14:30	2月2日(金)15:00~16:00
	入学金納付期限(ネット決済)	入学金・施設設備料あわせて 2月2日(金)14:30	
	施設設備料納付期限(ネット決済)	2月2日(金)16:00 2月14日(水)14:00 2月20日(火)12:00	
入学者説明会	3月2日(土)午後(時間未定)		

入試結果

募集人員	志願者数	推薦入試			帰国生入試			一般入試		
		受験者数	合格者数	実質倍率	受験者数	合格者数	実質倍率	受験者数	合格者数	実質倍率
2023年	男女合わせて約70名	男子 88	84	32 2.6	男子 87	71	25 2.8	男子 401	328	76 4.3
	女子 135	134	38 3.5	女子 114	94	43 2.2	女子 549	484	100 4.8	
	計 223	218	70 3.1	計 201	165	68 2.4	計 950	812	176 4.6	
2022年	男女合わせて約70名	男子 76	75	33 2.3	男子 101	78	29 2.7	男子 448	371	101 3.7
	女子 172	170	38 4.5	女子 124	103	42 2.5	女子 600	519	102 5.1	
	計 248	245	71 3.5	計 225	181	71 2.5	計 1048	890	203 4.4	
2021年	男女合わせて約70名	男子 97	94	35 2.7	男子 113	85	34 2.5	男子 389	323	103 3.1
	女子 181	179	41 4.4	女子 134	113	49 2.3	女子 599	510	113 4.5	
	計 278	273	76 3.6	計 247	198	83 2.4	計 988	833	216 3.9	

学費一覧

※下記学費等は2024年度に改定予定です。
※納付方法は学期ごとの分納となります。

(2023年4月入学生)

	1年	2年	3年
入学金	320,000		
施設設備料	220,000	220,000	220,000
授業料	600,000	600,000	600,000
実習料	5,000	5,000	5,000
保健料(消費税込)	6,000	6,000	6,000
冷暖房料	12,000	12,000	12,000
後援会会費	22,000	22,000	22,000
生徒会入会金	5,000		
生徒会会費	12,000	12,000	12,000
修学旅行積立金	80,000	65,000	
卒業積立金			55,000
合計	1,282,000	942,000	932,000

入学初年度の費用としては、次のようなものがあります。

※一般入試・帰国生入試の入学手続に際し、施設設備料に限り、納付を延期することができます。

(2023年4月入学生)

入学前(入学手続き時)	入学金	320,000
	施設設備料	220,000
	合計	540,000
入学後(各学期ごと3回の分納)	授業料	600,000
	実習料・保健料・冷暖房料	23,000
	後援会会費	22,000
	生徒会入会金・会費	17,000
	修学旅行積立金	80,000
その他の購入費用	合計	742,000
	制服	40,000~60,000
	教科書	32,000~41,000
	体育着・シューズ等	38,000~46,000
	学習用端末	75,350

奨学金制度

人物・学力ともに優れていたりながら経済的な補助を必要とする生徒に、東京都および各県の高校奨学金、独立行政法人日本学生支援機構大学予約奨学金等の奨学金制度があります。本校としても次のような独自の奨学金制度を設けています。

給付奨学金
青山学院高等部奨学金
青山学院スカラーシップ奨学金
青山学院万代基金給付奨学金
青山学院万代奖学金高等部特別奨学生
友情資金に基づく奨学金
授業料軽減制度
高等学校等就学支援金
東京都私立高等学校等授業料軽減助成事業